

第一日 第4-2

作文能力発達に関する縦断的研究 —— その(2) ——

お茶の水女子大学附属中学校 宗我部 義則
附属小学校 成田 信子

本研究は、お茶の水女子大学附属小学校、同中学校、同高等学校の国語科教官と、同大学院日本語文化専攻の教官ならびに学生で構成する「語彙研究会」による共同研究の第2回中間報告である。第1回中間報告は、第85回全国大学国語教育学会(1993年10月)で、田中美也子氏(附属中学校)が行った。

本年度より、国立国語研究所甲斐睦朗氏ならびにお茶の水女子大学人文科学研究科長友和彦氏を中心に文部省科学研究費補助金の助成を受け、新たにプロジェクトを興して研究を進めている。

研究の概要は、以下の通りである。

・研究のねらいおよび内容

作文能力の発達に関して、主に語彙の獲得および拡充の視点から研究調査する。

・研究の方法

小学校1年生～高校2年生までの各学年および大学生、留学生の同じ題名による作文(題名「手」—サンプル数各40)を、語彙拡充の視点から観点別に(品詞別使用頻度数、接続語句の変化等)分析して統計処理し、それらに系統的かつ総合的に考察を加えることによって、語彙発達の過程を縦断的に明らかにする。

研究の成果は、児童ならびに生徒の発達段階を踏まえた作文指導、また帰国子女ならびに留学生を対象とする語彙習得学習の指導の上に役立てたいと考えている。

第2回の発表である今回は、コンピュータによる基礎データ作成に関する事項と各学年の品詞別出現率と学年による発達の傾向について報告する。